

はれ あめ くもり ぶんきょうの空模様

文京ふるさと歴史館（本郷4） 24.02.10～03.17



出かける予定のある時、洗濯をたくさんする時など、「天気は？」と気にする方も多いと思われます。あるいは、天気予報をチェックすることを習慣にしている方もいるでしょう。当館では、文京区に関わりのあるものを収集していますが、天気という視点で収集庫を探してみると、関連のある資料が見つかります。

今回の「2023（令和5）年の収藏品展」では、“空模様を描いた絵画や天気に関わる道具、天気の描写のある本など”、収集庫で見つけた様々な資料を展示して、天気=空模様という身近なテーマで収藏品を紹介することで、これまで収集してきた資料の新しく、意外な魅力を感じると思われる。

高橋弘明（松亭） 《湯島天神》 はれ 上図

明治時代から昭和時代にかけて活躍した浮世絵師・版画家で、新版画の発展において一翼を担い、風景や美人、動物など様々な画題に取り組み、特に“江戸の風景を詩情豊かに写し出した作品”は、国内外を問わず高い評価を得た。

歌川広景 《江戸名所道外尽 四十六 本郷御守殿門前》 あめ 中図

突然夕立となってきたのであろう。しかし、困ったことに男三人に傘が一本しかない。そこで一人の男が妙案を思いついたようだ。二人が下となり、一人を肩車で担げば丁度傘の中に入れるだろう。しかし、横風もあり二人は濡れてしまう。

担がれた男は、これは楽チンと満足げ。きっとアイデアを思いついたのはこの男にいい違いはない。隣にいる俵を頭からかぶった男もユーモラスである。背後の武家屋敷は、加賀藩前田家上屋敷の御守門で、現在の東京大学の赤門である。

小林清親 《神田川夕景》 くもり 下図

明治時代の浮世絵師で、江戸から移り変わる東京の様子を版画で表現した。

作品は、錦絵、銅版画、石版画、肉筆画が多く、日清戦争時には、光線画を思わせる戦闘場面を描いた「錦絵」を「80点以上」版行している。